

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
教育心理学	看護学科/1年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	大久保 智生(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 人格形成および発達に果たす教育の役割を理解し自他ともにその関わり方に教育的配慮ができる力を養う。コミュニケーションの基礎となる人間関係論を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.心理学の基礎的な位置づけを理解し説明できる。 2.生涯発達する人間の行動や心理のメカニズムについて理解しその関わり方に教育的配慮ができる。 3.生活者としての対象が抱えるさまざまな問題について理解し、コミュニケーションの基礎となる人間関係論を学ぶ。</p> <p>【実務経験】大久保智生:大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。 学生が学びやすい事例等を活用するとともに教授方法を工夫する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	授業の進め方について	
2	心理学とは	行動の科学としての心理学について	・科学、行動
3	記憶	記憶のメカニズムについて	・感覚記憶、短期記憶、長期記憶
4	知覚	外界の情報の受け取り方について	・知覚、感覚、刺激域
5	学習	持続的な行動の変容について	・条件づけ、モデリング
6	動機付け	人の行動の原因について	
7	発達	生涯発達について	・親子関係
8	パーソナリティ	人の性格とその理解の仕方について	・持性論、相互作用論
9	対人関係	他者との関係が行動に及ぼす影響について	・援助行動
10	ストレスと適応	ストレスへの対処の仕方について	・適応、コーピング
11	犯罪・非行	少年犯罪の凶悪化のウソについて	・少年犯罪の凶悪化
12	虐待	虐待について	・虐待、世代間連鎖
13	学力低下	学力低下と階層について	・階層、成績、学習意欲
14	メディアの影響	メディアの報道が作り出す言説について	・言説、メディア
15	まとめ	これまでの授業のまとめ	
	試験	上記終了後前期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・大久保智生著:実践をふりかえるための教育心理学 ナカニシヤ出版		科目終了時の最終試験の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
教育原理	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	葛城 浩一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 看護師を目指すあなたが、なぜ「教育(原理)」について学ばなければならないのでしょうか。それは、看護師としてのあなたにとってだけでなく、例えば、指導者としてのあなたや親としてのあなた、納税者としてのあなた・・・にとって、「教育」が非常に身近な問題だからです。この授業では、教育の基本的な事項について学びます。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)] ①授業中に与えられた課題について、自分の意見を他者にわかるように表現することができる。 ②授業で取り上げたテーマのそれぞれについて、重要だと思ったこと等を、自分の経験等も交えながら、他者にわかるように表現することができる。</p> <p>【実務経験】葛城浩一: 大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。 学生が主体的に学べるよう、教育方法を工夫し授業を展開する。</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	イントロダクション	授業の目的・ねらい等について	「教育」について学ぶ意味
2	「教育」とは何か? ①	「教育」の重要性について	「教育」を受けなかったらどうなるか?
3	「教育」とは何か? ②	「教育」の定義について	他者に対してなされる行為 意図的に組織化する 教育には限界がある
4	教育の可能性と限界①	遺伝と環境の影響について	遺伝か? 環境か? 教育は要るのか? 要らないのか?
5	教育の可能性と限界②	教育の可能性について	DNA操作で教育はどう変わるか?
6	「社会化」とは何か? ①	「社会化」について	内容に着目した分類 意図に着目した分類 方法に着目した分類
7	「社会化」とは何か? ②	通過儀礼について	通過儀礼の構造はどのようなものか?
8	レポート・まとめ	レポートと最後のまとめ	ふりかえりのグループワーク
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストは使用しません。		1)ワークシート 50%(達成課題①に対応) 2)レポート 50%(達成課題②に対応)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
教育方法論	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(15時間)	必須	葛城 浩一(非常勤) (実務経験有)
<p>〔授業の目的・ねらい〕 看護師を目指すあなたが、なぜ「教育(方法論)」について学ばなければならないのでしょうか。それは、看護師としてのあなたにとってだけでなく、例えば、指導者としてのあなたや親としてのあなた、納税者としてのあなた・・・にとって、「教育」が非常に身近な問題だからです。この授業では、教育方法としてのアクティブ・ラーニングを通して、教育方法について具体的に考えます。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(行動目標)〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中に与えられた課題について、自分の意見を他者にわかるように表現することができる。 2. 与えられた最終課題について分析した内容を、他者にわかるようにプレゼンすることができる。 3. 授業のふりかえりを、他者にわかるように表現することができる。 <p>【実務経験】葛城浩一:大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動、研究活動を行っている。 学生が主体的に学べるよう、教育方法を工夫し授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
〔授業の内容〕			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	教育の現場を知る①	教育の現場について(教員主導型学習)	教育の質保証
2	教育の現場を知る②	教育の現場について(学生主導型学習)	アクティブ・ラーニング 協同学習(ジグソー)
3	グループワークの イントロダクション	「チーム」で働くためのコミュニケーションについて	目的を共有化すること 最初にしっかりと計画を立てること等
4	プレゼン準備①	プレゼン内容の方向性の検討について	
5	プレゼン準備②	プレゼン内容の詳細の検討について (進捗状況の報告を含む)	
6	プレゼン準備③	プレゼン内容の詳細の検討について	
7	プレゼン準備④	プレゼン媒体等の準備について	
8	プレゼン・まとめ	プレゼンと最後のまとめ	
〔使用テキスト〕 テキストは使用しません。		〔単位認定の方法及び基準〕(試験等の評価方法)	
		1)ワークシート 20%(達成課題①に対応) 2)プレゼン 50%(達成課題②に対応) 3)レポート 30%(達成課題③に対応)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
論理的思考の基礎	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	大西 多江子(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 論理的思考の基礎を身につけ、読む・書く・聞く・話す能力を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 物事に対し、論理的に考え、理解することができる。 2. 自分の意見を論理的に小論文で書くことができる。 3. 自分の考えを相手や目的に応じて、効果的に伝えることができる。 4. 話し手の考えを的確に理解し、自分の考えを持つことができる。</p> <p>【実務経験】大西多江子:小学校教諭、校長として本科目に精通し教授活動を行ってきた。 学生が自己の考えを文章構成のもと表現できるよう、演習をとり入れ授業を展開する。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	論理的思考の必要性和重要性	論理的思考の定義 論理的思考の重要性	論理的に伝える必要性 作文・論文との相違点
2	論理的思考の基礎	論理的思考の要素	思考力の要素 (抽象化、対比関係、因果関係) 接続詞(順接、逆説、対比等)
3	論理的な文章Ⅰ	論理的文章の基礎	段落、文章構成構成メモ (三部構成、四部構成) 4行作文
4	論理的な文章Ⅱ	文章構成の基礎1	序論・本論・結論 段落の展開の方法
5	論理的な文章Ⅲ	文章構成の基礎2	4部構成の論文の基礎 (因果関係、意見提示、展開、結論)
6	論理的な文章Ⅳ	確認テスト	*評価の対象
7	小論文を書くⅠ	文章構成を考える	構成メモの作成 序論・本論・結論の明確化 原稿用紙の使い方
8	小論文を書くⅡ	序論・本論・結論を書く	序論、本論、結論の明確化
9	小論文を書くⅢ	序論・本論・結論を書く	本論の内容
10	小論文を書くⅣ	序論・本論・結論を書く	内容・表現の見直し
11	小論文を書くⅤ	序論・本論・結論を書く	説得力のある文章 原稿用紙の正しい使いかた
12	小論文を書くⅥ	推敲し、清書する	*評価の対象
13	スピーチⅠ	スピーチの基本	話す・聞く能力
14	スピーチⅡ	スピーチの工夫をする	効果的な話し方 (声量・聞く・目線等)
15	スピーチⅢ	スピーチをする・聞く	*評価の対象
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・「看護学生のためのレポート・論文の書き方」高谷修(金芳堂) ・「看護医療系の小論文」石関直子(学研教育出版) ・「よくわかる看護師試験のための論作文術」土屋書店編集部(土屋書店) ・「本当の国語力が驚くほど伸びる本」福嶋隆史(大和出版) ・「小論文これだけ！」樋口裕一(東洋経済新報社) 		1) 論理的に読むテスト:40% 2) 小論文を書く:40% 3) スピーチ:20% * 学習態度を考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
情報科学概論	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	田井 麻友美(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>コンピュータとネットワークはさまざまな場面で必要不可欠なものになってきている。医療や看護分野における情報化に対応するため、コンピュータとネットワークの基本概念と原理について学び、情報科学の基礎的な知識と技能を習得する。</p> <p>情報活用の理論を学び、情報社会への対応および看護に応用できる能力を身につける。</p> <p>情報と医療の関わりについて学ぶ。医療・患者情報に関する倫理と情報セキュリティについて学ぶ。</p> <p>次々と出てくる新しいモノやサービスを取捨選択し、これらに振り回されずに活用する感覚と能力(情報活用能力:メディアリテラシー)を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療現場などに利用される電子カルテやオーダーリングシステムなどの特徴を説明できる。 2. 情報モラルを身につけ、日常生活において、SNSなどのインターネット利用を適切に対処できる。 3. iPadのアップデートを自ら行うことができる。アプリからAirPrintを利用してレポートなどを出力することができる。 <p>【実務経験】田井麻友美:PCインストラクターとして豊富な経験(学校での教授含む)を有し、情報処理・管理・モラルに精通し教授活動を実践している。知識・技術ならびに情報管理について主体的に学べるよう授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	コンピュータの概要	1)iPadの利用	電子メール・iCloud
2		2)クラウドの活用方法	グループウェア
3		3)コンピュータの種類	情報・データ・ハードウェア・ソフトウェア
4	iPadアプリの活用	4)コンピュータシステムの構成	中央処理装置・主記憶装置
5		5)コンピュータの歴史	真空管・トランジスタ・集積回路(IC)
6		1)アプリのインストールと活用	マイクロプロセッサ(LSI)
7		2)AirPrint	AppStore・DropBox
8	コンピュータ演習	3)表計算ソフトの活用	iPadからの出力方法
9		4)ワープロを利用したタイピング	Excel
10		5)プレゼンテーション技法	Word
11		1)Windowsパソコンの操作	PowerPoint
12	情報化による医療の変化	2)学生サーバーの利用	コンピュータ実習室の利用の方法
13		3)クラウドの活用	学生用サーバー・プリントアウトについて
14		1)医療の情報化	DropBox
15	医療とコンピュータ	2)フローチャート作成支援	セカンドオピニオン・インフォームドコンセント
		3)病院システム	Grafio
		4)診療報酬制度	オーダーシステム・電子カルテシステム
		5)病院の統計資料	医療費の仕組み・診療報酬明細書・DPC
		6)統計資料を表現する方法	ICD・退院サマリー
		1)医療現場におけるコンピュータの利用	ヒストグラム・散布図・箱ひげ図
		2)病院システム	・CT・MRI
			・レセコン・オーダーシステム・電子カルテ
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
できるoffice for iPad		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 60% 2) 提出物 30% 3) 出席10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
倫理学	看護学科1年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (16 時間)	必須	佐藤 慶太(非常勤) (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

倫理学上の主要な学説を理解し、医療従事者として身につけるべき倫理規範を学ぶ。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 倫理学における主要学説について、説明することができる。
2. 医療従事者として身につけるべき倫理規範について説明することができる。
3. 倫理的な問題を話し合うにあたり、自分の考えをほかの人にわかりやすく伝えることができる。
4. 倫理的な問題を話し合うにあたり、自分の考えの根拠を的確に示すことができる。

【実務経験】佐藤慶太:大学にて本科目に関する内容に精通し教授活動を行っている。
学生の倫理観を醸成できるよう教育方法を工夫し授業を展開する。

【準備学習】

前回の授業内容を復習して授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	倫理学とは何か	オリエンテーション 「倫理学」はどのような学問か	「倫理学」の基本的な意味をつかむ。 意見をグループ内で発表する練習をする。
2	倫理学と文化的相違	倫理的規範は文化ごとに異なるのかどうか 医療の現場では、どんなルールが必要か	倫理的規範と文化の関係について学ぶ。 医療倫理の四原則を学ぶ。
3	科学の発達と倫理学	科学の進歩はどのような問題を引き起こすか	科学の進歩がひきおこす問題を、「出生前診断」の事例に基づいて学ぶ。
4	功利主義	善悪の基準は動機か、結果か 多数決にはどんな問題が潜んでいるか	功利主義の基本的な枠組を理解する。 功利主義に含まれる問題について理解する。
5	義務論	結果に基づいた善悪の判断にどんな問題があるか 代理出産にはどのような問題があるか。	義務論の基本的な枠組を理解する。 「代理出産」の問題について考える。
6	正義論	「平等」はどこまで実現されるべきか	正義論の基本的な枠組を理解する。 能力主義と平等主義の対立について考える。
7	徳倫理学	「思いやり」は倫理を考える上で必要か	「愛」や「友情」が倫理学でどのように扱われるか、事例に即して学ぶ。
8	まとめ	これまでに学んだことを振り返る。	これまでに学んだ内容を頭の中で整理する。
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

教科書は使用しません。
毎回プリントを配布します。

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:60%
- 2)授業中の活動(グループワークなど)の評価:40%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
法学概論(行政活動を中心に)	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
9回	1単位 (16 時間)	必 須	辻上 佳輝(非常勤) (実務経験有)
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] 将来医療関係の職に就く人たちにとって、法律はとてども馴染みが薄いものでしょう。しかし、近年の医療事故の増加などで分かるように、医療看護の世界にも法的な考え方は必須といえる。本講義では、まず法律の基本的な知識を学び、その後医療過誤判例を読むことで、将来必要とされる法律に関する知識の最低限を身につけることを目的とする。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)] 1 基本的な法律語彙を理解し、おおむね使えるようになる 2 代表的な医療過誤を理解し、法的な思考法になじむ</p> <p>【実務経験】辻上佳輝: 大学にて本科目に関する内容に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 法律に関する基礎的知識ならびに看護に関する法令を判例等を用いて学べるよう授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	ガイダンス・法学の基礎①	条文と基本発想	各授業において、適宜伝えま す。
2	法学の基礎②	条文と解釈・法律用語	
3	民法の基礎①	契約	
4	民法の基礎②	不法行為	
5	医事法学①	医療者の資格	
6	医事法学②	診療契約・応召義務	
7	医事法学③	医療水準論	
8	医事法学④	説明義務・転移勧告義務	
9	医事法学⑤	看護師の責任	
	試験	上記終了後、期末試験(課題レポート)	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・適宜資料を配布		1)科目終了時の最終試験・課題レポート(100%)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
家族社会学	看護学科/1年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (15 時間)	必須	日高 幸亮(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本科目は現代社会における家族の特性、および役割について学ぶとともに、現代家族の抱える問題について知り、その対策について主体的に考えることを目的としている。家族の多様性について理解することは、看護職として仕事をする上で重要である。授業は、講義だけでなく、「グループ学習」「グループ討議」により展開する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における「家族」の時代的变化について説明できる。 2. 現在社会の家族をめぐる諸問題について理解し、その対策を説明できる。 3. 医療における家族支援のあり方について、自分なりの視点を持つことができる。 <p>【実務経験】日高幸亮:臨床心理士、スクールカウンセラーの経験等にて本科目に精通している。 基礎的知識の習得ができるよう演習を用いて授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	ガイダンス 「家族」とは	1)家族社会学の学習内容と進め方 2)家族の定義	家族について学ぶことの意義について理解する
2	家族の歴史的变化	1)家族の近代化 2)家族の多様化	「家族」の歴史の変遷を学習し、多様化した家族のあり方について理解する
3	結婚	1)配偶者選択と結婚 2)多様化する結婚のかたち	結婚に対する価値観の多様化と未婚率の増加について理解する
4	夫婦関係	1)夫婦の役割 2)夫婦の個別化	性的役割分業という意識の変遷について知り、今後の夫婦関係のあり方について考える
5	親子関係	1)子育て 2)3歳児神話	女性のライフコースの変化と出産・子育てとの関連について考える
6	高齢者と家族	1)高齢者と家族との関係 2)高齢者介護	高齢化社会の中で、高齢者のおかれた状況と家族関係について学ぶ
7	家族が抱える問題と支援	1)離婚と家族 2)DV、ひきこもり	現代家族が抱える問題とその支援対策について学ぶ
8	医療における家族支援	1)ジェノグラムの書き方 2)家族教室、家族支援	家族関係が多様化する中で、看護職としてどのような家族支援が必要か検討する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
特になし		1)最終試験評価:60% 2)毎時の小レポートと小テスト:40%	
[参考図書] 適宜提示する			

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
コミュニケーション トレーニングⅠ	看護学科/1年次	令和3年度	○講義 ・ ○演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	渡部 祐加(非常勤)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日常生活や、将来の看護の場面で必要不可欠なコミュニケーションについて学ぶ。具体的には、話すこと、聴くことのポイントやチームワークの意義について、ゲームやワークを通じて体感的に学び、相互行為としてのコミュニケーション</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生生活や看護の場面でのコミュニケーションの意義を理解することができる。 2. コミュニケーションにおける、傾聴、表現のポイントを理解し説明することができる。 3. チームワークにおけるコミュニケーションの意義やポイントを理解し説明することができる。 4. 以上を踏まえて、学生生活や看護師としての実践に活かすことができる。 			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	コミュニケーションとは何か	様々なコミュニケーション/アイスブレイク	・コミュニケーションはどのようなものか理解する
2	コミュニケーションの特徴(1)	話し言葉による表現(1)	・絵本『ぼぼぼぼ』をどうすればうまく読み聞かせできるかをみんなで考える
3	コミュニケーションの特徴(2)	話し言葉による表現(2)	・伝達ゲームを通じて、自分の話し方聞き方の特徴に気づく
4	コミュニケーションの特徴(3)	話し言葉による表現(3)	・目の見えない人にどうすれば絵を説明できるかをみんなで考える
5	表現する(1-1)	書き言葉による表現(1)	・絵本『あおくとさいろちゃん』を読んで、自分なりの物語を作ってみる
6	表現する(1-2)	書き言葉による表現(2)	・絵本『あおくとさいろちゃん』を読んで、自分なりの物語を作ってみる
7	表現する(1-3)	書き言葉による表現(3)	・絵本『あおくとさいろちゃん』を読んで、自分なりの物語を作ってみる<講評会>
8	表現する(2-1)	書き言葉による表現(4)	・ガブリエル・バンサンのデッサン絵本にセリフをつけてみる
9	表現する(2-2)	書き言葉による表現(5)	・ガブリエル・バンサンのデッサン絵本にセリフをつけてみる
10	表現する(2-3)	書き言葉による表現(6)	・ガブリエル・バンサンのデッサン絵本にセリフをつけてみる<講評会>
11	チームワーク(1)	病院でのクリスマス会を企画してみる(1)	・課題達成における目標の明確化と情報の共有化の重要性に気づく
12	チームワーク(2)	病院でのクリスマス会を企画してみる(2)	・リーダーシップとその機能について学ぶ また、コンセンサスのポイントを学ぶ
13	チームワーク(3)	病院でのクリスマス会を企画してみる(3)	・グループプロセスの諸要素を学ぶ <講評会>
14	チームワーク(4)	病院でのクリスマス会を企画してみる(4)	・グループプロセスの諸要素を学ぶ <講評会>
15	総括	これまでの授業のまとめ	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・毎回プリントを配布します。		1)科目終了時のレ:評価30% 2)授業での課題(レド)への取組:70%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
手話講座	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
23回	2単位(46時間)	必須	菊川 優加(非常勤) (実務経験有)	
<p>[授業の目的・ねらい] 手話の基礎的知識を身につけ、学生が主体的にサークルや聴障協会行事、また、ボランティア活動に参加し手話能力を身につけるとともに、全国手話検定試験5級を取得することを目的とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. 手話の読み取り方法を学び、対象者の思いを理解するスキルを身につけることができる。 2. 手話を学ぶだけでなく、ディスカッションを通じて、視覚言語による表現スキルを身につける。 3. 全国手話検定試験5級を取得できる。</p> <p>【実務経験】菊川優加:聴障センターに勤務し手話資格をいかして実務にあたっている。基本的な知識、手話検定5級取得、ノンバーバルコミュニケーション力、聴覚障がい有する対象理解を実務経験をいかし授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p>				
[授業の内容]				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	手話の基礎知識	1) 手話とは	伝えることの大切さを学ぶ	
	〃	2) 手話を学ぶ際の留意事項		
2	聴覚障害者とは	1) 聴覚障害者の理解	聴覚障害者のことを知った上で実際に体験してみる	
	〃	2) 聴障体験 3) ディスカッション		
3	基本表現 (挨拶・指文字など)	1) 指文字・数の表し方	★模擬試験 スピーチ・会話試験など	
4	自分のこと	2) 名前の表し方		
5	〃	1) 基本単語の手話表現		
6	得意なこと	2) 短文・会話練習		
7	〃	1) 基本単語の手話表現		
8	好きなこと	2) 短文・会話練習		
9	〃	1) 基本単語の手話表現		
10	仕事のこと	2) 短文・会話練習		
11	〃	1) 基本単語の手話表現		
12	日常生活のこと	2) 短文・会話練習		
13	〃	1) 基本単語の手話表現		
14	受験対策の演習	2) 短文・会話練習		
15	〃	1) 演習		
16	家を紹介しましょう	〃		
17	〃	1) 場所の表し方		
18	1日のこと	2) 交通手段の会話練習		
19	〃	1) 基本単語の手話表現		
20	〃	2) 短文・会話練習		
21	〃	1) 基本単語の手話表現		
22	〃	2) 短文・会話練習		
20	聴障者の思い	体験談等の講演		当事者の話を聞く 当事者と話してみる
21	医療現場の	1) どのような場面で、どのような配慮が必要か		医療現場で大事なこと
22	コミュニケーション	2) 手話単語・短文練習		
23	試験	上記終了後、期末試験		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
社会福祉法人全国手話研修センター編集 手話でステキなコミュニケーション1DVDで学ぶ 手話の本 5級		1) 試験評価(筆記25%・実技試験25%) : 50% 2) 授業態度・出席状況 : 50%		

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の構造学 I	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	太田 健一(非常勤) (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。

看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 人体の構造を医療に携わる共通言語である解剖用語を用いて説明できる。
2. 人体の諸器官の形態を肉眼解剖学の知識を用いて説明できる。
3. 人体の構造と器官の位置を系統的に学び、病理学、疾病治療学の基礎とする。

【実務経験】太田健一: 大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。

学生が人体の構造について知識習得できるよう、授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】

授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	人体の基本単位 細胞・組織・器官	1)細胞と細胞膜の構造 2)組織の構造	平行して開講している「人体の機能学」と関連づけて学習すること。また看護実践に必要な人体の構造・機能や疾病との係わり合いの中で、生化学、病理学を含めた総合的な学習を心がけること。
2	人体の構造	1)人体の特徴 2)人体の形成、人体の体位と区分	・細胞の構成要素 ・上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織 ・人体の部位の名称、身体の方向と位置
3	体の支持と運動 骨格系	1)骨の連結 関節の構造	・骨の構造と結合 ・頭蓋・脊柱の構成
4	”	2)体幹の骨格 頭蓋、脊柱、胸郭、骨盤	・上肢を構成する骨と関節 ・下肢を構成する骨と関節
5	”	3)上肢の骨格	
6	”	4)下肢の骨格	
7	筋系	1)骨格筋の構造 体幹の筋肉、上肢の筋	・関節の運動と筋肉の起始停止 ・上肢の屈筋と伸筋
8	”	2)下肢の筋	・下肢の屈筋と伸筋 ※解剖見学実習も含む
9	呼吸器の構造	1)鼻腔、副鼻腔	・鼻腔および副鼻腔の構造
10	”	2)咽頭、気管、気管支	・咽頭・喉頭の構造 ・気管・肺の形状、構造、位置
11	”	3)肺、胸膜、縦隔	・胸膜の構造・縦隔の位置
12	循環器系の構造	1)循環器系の構造 2)心臓の構造	・心臓の構造、刺激伝導系、心臓の弁 心臓の血管
13	”	3)血管の構造、肺循環	・動脈、静脈、毛細血管
14	”	4)全身の動脈	・大動脈弓、胸・腹部大動脈・大脳動脈輪
15	”	5)全身の静脈	・上・下大静脈、頭頸部の静脈、 上・下肢の静脈、門脈系
	”	6)リンパ系 7)胎児循環	・リンパ管の構造・分布とリンパ液の流れ ・胎児の血液循環、静脈管、動脈管
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・ナーシンググラフィカ 解剖生理学、メディカ出版

[参考図書]

・加藤尚武:現代倫理学入門、講談社

※解剖見学に向けて倫理的態度を養います。

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の構造学Ⅱ	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	太田 健一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。 看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1.人体の構造を医療に携わる共通言語である解剖用語を用いて説明できる。 2.人体の諸器官の形態を肉眼解剖学の知識を用いて説明できる。 3.人体の構造と器官の位置を系統的に学び、病理学、疾病治療学の基礎とする。</p> <p>[実務経験]太田健一:大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 学生が人体の構造について知識習得できるよう、授業方法を工夫し実践する。</p> <p>[準備学習] 授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	栄養の消化と吸収 消化器系	1)消化器の構造、口腔、咽頭、食道	平行して開講している「人体の機能学」と関連づけて学習すること。また看護実践に必要な人体の構造・機能や疾病との係わり合いの中で、生化学、病理学を含めた総合的な学習を心がけること。 ・消化器の形状、構造、位置 ・腎臓、尿管、膀胱、尿道の形状、構成、位置 ・ニューロンとシナプス ・脳の形状と構造 ・大脳皮質の機能領域、脊髄の構造 ・下行性伝導路(錐体路、錐体外路) ・脳神経の名称と神経支配 【レポート】 「脳神経の走行と神経支配」 ・交感神経、副交感神経 ・内耳、中耳の構造 ・眼球の構造と眼筋 ・舌の構造 ・皮膚の構造 ・精巣、精路、前立腺 ・卵管、子宮、骨盤腔の構造 ・受精、胎児と胎盤
2	”	2)胃、小腸、大腸	
3	”	3)肝臓、膵臓、腹膜	
4	体液の調節と尿の生成 泌尿器系	1)腎臓	
5	”	2)尿管、膀胱、尿道	
6	情報の受容と処理 中枢神経系	1)神経細胞と支持細胞	
7	”	2)脊髄、脳①	
8	”	3)脳②	
9	”	4)伝導路	
10	”	1)脳脊髄神経と脳神経①	
11	”	2)脳脊髄神経と脳神経② 自律神経	
11	感覚器系	1)視覚器、平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	
12	”	2)味覚器	
13	”	3)皮膚の構造、血管、神経	
13	生殖器系	1)男性生殖器	
14	”	2)女性生殖器	
15	発生	受精と胎児の発生	
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・ナーシンググラフィカ 解剖生理学、メディカ出版		1)科目終了時の最終試験の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
人体の機能学 I	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	太田 健一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。</p> <p>看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.人体の諸器官の機能を医療に携わる共通用語である解剖用語を用いて説明できる。 2.人体の生命活動を解剖学、機能学の知識をもち説明できる。 3.対象の健康・疾病・障害について看護判断の根拠として説明できる。</p> <p>【実務経験】太田健一:大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 学生が人体の機能について知識習得ができるよう授業方法を工夫し実践する。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	機能から見た人体	1)生命体維持システム 2)運動・調節システム 3)体液とホメオスタシス	・人体の構造学と関連付けて学習する ・内部環境と外部環境
2	〃		
3	血液のはたらき	1)血液の組成と機能 2)赤血球 3)白血球 血小板 4)血漿タンパク質 5)血液凝固と線維素溶解 6)血液型	・血漿 血清 血餅 ・ヘモグロビン エリスロポエチン ・顆粒球 リンパ球 単球 ・免疫グロブリン ・出血時間 凝固時間 ・輸血 HLA
4	〃		
5	〃		
6	体の支持と運動	1)筋の収縮	※解剖見学実習も含む
7	内臓機能の調節	1)内分泌系による調節 2)内分泌腺と内分泌細胞	・ホルモン
8	〃	3)視床下部-下垂体 4)甲状腺と副甲状腺	
9	〃	5)膵臓 6)副腎 性腺	
10	〃	7)ホルモンによる調節の実際	・糖代謝 カルシウム代謝
11	呼吸のはたらき	1)内呼吸と外呼吸 2)呼吸器と呼吸運動 3)呼吸気量 4)ガス交換とガスの運搬 5)肺の循環と血流 6)呼吸運動の調節 7)呼吸器系の病態生理	・気道・肺胞の機能 ・呼吸のメカニズム ・肺活量 ・肺循環
12	〃		
13	〃		
14	血液の循環とその調節	1)心臓の拍出機能 2)心臓の興奮とその伝播 3)心電図 4)心臓の収縮	・換気障害 拡散障害 ・興奮の伝播 ・心電図の導出 ・心拍出量
15	〃		
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・ナーシンググラフィカ 解剖生理学、メディカ出版		1)科目終了時の最終試験の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
人体の機能学Ⅱ	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	太田 健一(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活の援助においても人体の構造と機能に関する知識を土台として活用している。看護行為を人体の構造と機能から科学的に説明できるように、人体の健康に関わる職種として人体に関する知識は必要不可欠である。</p> <p>看護は「健康問題」により生じた人間の反応を診断し治療する機能を持つ。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において健康・疾病・障害に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.人体の諸器官の機能を解剖用語を用いて説明できる。 2.人体の生命活動を構造学、機能学の知識を持ち説明できる。 3.対象の健康・疾病・障害について看護判断の根拠として説明できる。 <p>【実務経験】太田健一:大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 学生が人体の機能について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題シートにて学習を深める</p>			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	血液循環の調節	1)血圧 血液の循環	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造学と関連づけて学習する ・血圧の調節機構
2	”	2)血圧・血流量の調節	
3	栄養の消化と吸収	3)微小循環 循環系の病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・血管収縮物質 血管拡張物質 ・胸管 右リンパ本幹 乳び槽 ・嚥下の過程
4		4)リンパとリンパ管	
5	体液の調節と尿の生成	1)上部消化管の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・尿生成のメカニズム ・近位尿細管 遠位尿細管 集合管
6		2)腹部消化管の機能	
7	”	3)膵臓・肝臓・胆嚢の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・レニン アンギオテンシン アルドステロン ・水の出入 脱水 酸塩基平衡 ・アシドーシスとアルカローシス
8		4)体液の調節	
9	内蔵機能の調節 情報の受容と処理	1)自律神経の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューロン ・脊髄反射
10		2)神経系の機能 脊髄と脳	
11	”	3)脳の高次機能	<ul style="list-style-type: none"> ・脳波と睡眠 記憶 ・脳幹・小脳・間脳の機能
12		4)視覚・聴覚・平衡覚	
13	外部環境からの防御	5)味覚と嗅覚 疼痛	<ul style="list-style-type: none"> ・大脳の機能 体性運動野 視覚野 運動性言語野 感覚性言語野
14		1)生体の防御機構 非特異的防御機構	
15	”	2)免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・サイトカイン マクロファージ 好中球 ・B細胞 T細胞 免疫グロブリン
16		1)体温とその調節	
17	生殖・発生と老化のしくみ	1)成長と老化	<ul style="list-style-type: none"> ・熱の産生と放散 ・体温調節中枢 発熱 ・生殖機能
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・ナーシンググラフィカ 解剖生理学、メディカ出版		1)科目終了時の最終試験の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床生化学	看護学科/ 1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	吉田 裕美(非常勤) (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

ヒトの生命現象および病態は、遺伝子情報や生体内物質の変化と密接にかかわっている。生命の維持のために必要な生体内で起こる反応を理解できるよう、遺伝子情報や生体内物質の変化を説明する生化学の基礎知識を修得することをねらいとする。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 人体を構成・維持する物質について説明できる。
2. 人体の生命活動を維持・調節する代謝について説明できる。
3. 人体の生命現象の基盤である遺伝子情報について説明できる。
4. 臨床的に重要な酵素や生体に必須である物質について、生理的意義、病態との関連を説明できる。

【実務経験】吉田裕美: 大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が生化学について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。

【準備学習】

授業の復習、予習を行い授業に臨むとともに課題にて学習を深める

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	巻末資料	生化学を学ぶために知っておきたい化学の基礎知識	化学の基礎知識
2	生命の維持に必要な栄養素の構造と性質	1) 細胞 細胞の構造と機能	生体を構成する各物質の構造、性質 ・細胞や細胞膜の構造と機能
3	生命の維持に必要な栄養素の構造と性質	2) 糖質 糖質の種類 糖質の構造と性質	・糖質の構造と性質 ★理解度確認の小テスト
4	生命の維持に必要な栄養素の構造と性質	3) 脂質 脂質の種類と役割	・脂質の種類・構造と性質
5	酵素	4) アミノ酸とタンパク質 タンパク質の構造と分類	・タンパク質の構造、分類、役割
6	生命の維持に必要な栄養素の構造と性質	酵素 酵素の役割と性質 酵素反応とその阻害	・酵素の機能と特徴 ★理解度確認の小テスト
7	生命の維持に必要な栄養素の構造と性質	5) 核酸とヌクレオチド 塩基 DNAとRNAの構造	・核酸の構造
8	代謝総論	6) ビタミン ビタミンの種類と生理作用	・ビタミンの機能 生体を構成する物質の代謝過程
9	さまざまな代謝	代謝とは 代謝とその制御	★理解度確認の小テスト
10	さまざまな代謝	1) 糖質代謝 糖質の消化と吸収 グルコースの主な代謝系 糖新生	・糖質代謝過程
11	さまざまな代謝	2) 脂質代謝 脂質の消化と吸収 脂肪酸の分解と生合成 ケトン体の生成、コレステロールの生合成	・脂質代謝過程
12	さまざまな代謝	3) タンパク質とアミノ酸の代謝 タンパク質の消化と吸収 アミノ酸の利用、合成	・タンパク質(アミノ酸)代謝過程
13	エネルギー代謝の統合と制御	4) 核酸・ヌクレオチドの代謝 ヌクレオチドの合成と分解	★理解度確認の小テスト ・ヌクレオチドの合成・分解
14	遺伝情報	臓器間の代謝のつながり 代謝異常と疾患	・エネルギー代謝の制御
15	遺伝情報 先天性代謝異常	遺伝情報の複製、転写、翻訳 遺伝子の変化、遺伝子診断・遺伝子治療 先天性代謝異常	・遺伝情報の保存と発現 ★理解度確認の小テスト ・病気と遺伝子の関連

[使用テキスト]

・宮澤恵二 編：ナーシンググラフィカ
人体の構造と機能② 臨床生化学、メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験: 80%
 - 2) 理解度確認の小テスト: 20%
- (小テストの実施と範囲は進行状況に応じて行う。)

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
健康科学概論	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位 (16 時間)	必須	佐藤洋子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程と社会的条件との関連や健康を維持するための自然治癒力・ホメオスタシスの考えを基に病気に対する科学的な見方を学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康とは何か、どのような状態か」を科学的に理解できる。 2. QOL(quality of life,生活の質)の向上を実現するための健康な生活について説明できる。 3. 人々が健康増進や健康を回復できるように看護職として支援する役割を担うことを認識できる。 4. テーマポートフォリオとライフポートフォリオを作成し活用することができる。 5. 「自分の健康は自分で守る」為に、何が必要か考えることができる。 <p>【実務経験】佐藤洋子:保健師として5年以上の実務経験。これまでの保健師活動の経験を教材とし、健康についての理解を深めるとともに支援のあり方を学べるよう授業展開する</p> <p>【準備学習】 授業の復習、テキスト等による予習を行い授業に臨むとともに課題にて学習を深める</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	健康とは	「健康を損ねる原因を考えよう!!」 ・日常生活と健康問題 ・グループワーク	健康に影響を及ぼす要因
	ポートフォリオとは	ポートフォリオとは? ポートフォリオの作成 ・三井記念病院新人看護師教育でのポートフォリオ	・夢ファイルとライフポートフォリオ ライフポートフォリオ
2	健康とは	自分自身の健康問題と対策を考える。 ・「ある学生の1日の生活」を参考にまとめる。 (教科書P34～35)	・エリクソンの発達課題 ・マズローのニーズの5段階
3	QOLとは	「希望は必ず見つかる」 がん看護専門看護師の体験を通して考える	・QOL
4	健康の指標・政策	健康のとらえ方の変遷 健康状況と受療状況を知ろう(国民衛生の動向) 予防医学の概念 WHO健康の定義、プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーション、国際生活機能分類(ICF)	・生活習慣病と健康増進対策 ・一次予防、二次予防、三次予防 ・WHO健康の定義 ・プライマリーヘルスケア ・ヘルスプロモーション ・国際生活機能分類(ICF)
5	食生活と健康	「食べる楽しみが、希望を生み出す」 栄養バランスを考えたお弁当の献立作り プレゼンテーションの方法	食事 栄養の意義 生理的意義 心理的意義 社会的意義
6	食生活と健康	食生活と健康 ・栄養バランスを考えたお弁当について プレゼンテーションの準備 (一人5分・弁当内容も考える)	
7	食生活と健康	～栄養バランスを考えたお弁当づくり～ プレゼンテーション 出席番号 奇数 作った弁当を撮影後昼食会 プレゼンテーション 出席番号 偶数	
8	まとめ	社会的な健康 笑いヨガの実践	社会的なウェルネス ソーシャルキャピタル 笑いの効果
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシンググラフィカ 健康と社会・生活 メディカ出版 ・必要資料を配布する 		<ol style="list-style-type: none"> 1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する。 	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	山川 けいこ(非常勤) (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

病気の起こるメカニズムおよび生体の形態学、組織学、機能的変化の特徴を学ぶ。健康を維持するための自然治癒力、ホメオスターシスの考えを基に病気に対する科学的な見方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 病気の起こるメカニズムおよび生体の形態学、組織学、機能的変化の特徴を述べることができる。
2. 健康を維持するための自然治癒力、ホメオスターシスの考えを基に病気に対する科学的な見方を述べるができる。

[実務経験] 山川けいこ: 大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。
学生が病理学について知識習得ができるよう、授業方法を工夫し実践する。

[準備学習]

授業の復習、予習を行い授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	病理学総論	1) 看護と病理学	<ul style="list-style-type: none"> ・病理学とは、病理診断の実際 ・細胞の適応現象と細胞死 ・血栓・塞栓・梗塞、うっ血とは ・炎症の過程と分類 ・アレルギー、膠原病、移植免疫 ・感染症とは、宿主の防御機構 ・代表的な病原体と感染症 ・各代謝障害の原因と特徴 ・先天異常の分類とその原因 ・腫瘍(良性・悪性)の定義と組織学的特徴 ・腫瘍の発生機序と発がんの原因 ・老化現象と死の定義
2	〃	2) 病気の原因、細胞・組織の傷害と修復	
3	〃	3) 循環障害	
4	〃	4) 炎症と免疫	
5	〃	5) 感染症	
6	〃	6) 代謝障害、先天異常と遺伝子異常	
7	〃	7) 腫瘍	
		8) 老化と死 総論まとめ	
	試験	総論授業終了後、中間試験	
8	病理学各論	1) 循環器系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・心奇形と虚血性心疾患 ・血球の成熟と疾患 ・リンパ節の構造と疾患 ・肺の炎症、換気障害と腫瘍性病変 ・食道、胃の炎症性疾患と腫瘍性病変 ・炎症性腸疾患、大腸癌 ・ウイルス性肝炎と肝癌 ・腎炎とネフローゼ症候群 ・前立腺癌、子宮癌、乳癌 ・下垂体、甲状腺、副腎における疾患 ・脳の循環障害、代表的な神経・筋疾患 ・骨折と代謝性骨疾患、骨腫瘍 ・主な関節疾患 ・眼・耳・皮膚における代表的な疾患
9	〃	2) 血液・造血器系疾患	
10	〃	3) 呼吸器系疾患	
11	〃	4) 消化器系疾患	
12	〃	〃	
13	〃	5) 腎・泌尿器・生殖器系、乳腺疾患	
14	〃	6) 内分泌系、脳・神経・筋肉系疾患	
15	〃	7) 骨・関節系、感覚器系疾患 各論まとめ	
	試験	各論授業終了後、期末試験	

[使用テキスト]

・系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学 医学書院

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 中間試験の評価: 50%
- 2) 科目終了時の期末試験の評価: 50%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
疾病治療学Ⅰ (呼吸・循環・消化器)	看護学科/1年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	岡部昭延(非常勤)実務経験有 吉川 圭(非常勤)実務経験有 山川俊紀(非常勤)実務経験有
<p>[授業の目的・ねらい] 科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(呼吸器・循環器、消化器)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1.患者の身体で起きている現象を説明できる。 2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。 3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。</p> <p>【実務経験】岡部昭延:大学病院をはじめ医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 学生が呼吸器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践する。 吉川圭:総合病院医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 学生が循環器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践する。 山川俊紀:総合病院医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 学生が消化器疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し実践する。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	呼吸器疾患	1)呼吸器の構造と機能 担当 青江 気道の防御機構 ガス交換 血液中の酸素	・呼吸器疾患について事例を通して学ぶ
2	〃	2)呼吸器疾患の症状 呼吸困難 胸痛 チアノーゼ 呼吸の異常	
3	〃	3)呼吸器疾患の診断 診察の方法 検査の方法	
4	〃	4)呼吸器疾患 慢性閉塞性肺疾患 肺がん 間質性肺炎 気管支喘息 結核	
5	〃	5)呼吸器疾患の治療 薬物療法 放射線療法 手術療法 呼吸訓練 胸腔ドレナージ	
6	循環器疾患	1)循環器の構造と機能 担当 吉川 循環器疾患 動脈・静脈の循環	・循環器疾患について事例を通して学ぶ
7	〃	2)循環器疾患の症状	
8	〃	3)循環器疾患の検査・治療 心電図検査 血管造影心臓カテーテル検査心エコー 人工血管置換術下肢静脈硬化療法 ペースメーカー植え込み 人工弁置換	
9	〃	4)循環器疾患 心不全 不整脈 狭心症 心筋梗塞 高血圧 弁膜症 肺梗塞 肺塞栓	
10	〃	5)循環器の治療 薬物療法 手術療法 インターベンション	
11	消化器疾患	1)消化器の構造と機能 担当 山川 肝・胆・膵のになう機能 消化管のになう機能	・消化器疾患について事例を通して学ぶ
12	〃	2)消化器疾患の症状	
13	〃	3)消化器疾患の診断 内視鏡 肝機能検査 腹部超音波検査 胆道・膵臓機能検査 腹部CT検査 血管造影検査	
14	〃	4)消化器疾患 食道がん 胃がん 大腸がん 潰瘍性大腸炎 クローン病 大腸ポリープ 肝疾患	
15	〃	5)消化器疾患の治療 食事栄養療法 薬物療法 手術療法	
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
田中 美智子他:健康の回復と看護 ナーシング・グラフィカ呼吸機能障害/循環器障害、メディカ出版 明石 恵子 他:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護② 栄養代謝障害		1)科目終了時の最終試験の評価:100%	
[参考図書] ・酒井建雄他編:系統看護学講座 専門基礎① 解剖生理学 医学書院			

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態																																																																				
基礎看護学概論 I (概念・歴史)	看護学科 / 1年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習																																																																				
授業の回数 (×90分)	単位数 (時間数)	必須・選択	授業担当者																																																																				
15回	1単位 (30時間)	必須	奈良 育代 (実務経験有)																																																																				
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本科目は、看護学の土台である基礎看護学に位置し、看護学において最初に学習する専門科目であり、看護学全体の基本的内容を含む。さらに、看護に関する過去(歴史)と現在および未来の見通しを捉え、看護学の本質を学ぶ科目である。また、看護学の豊かさや奥深さを実感し、看護学への関心が高まると同時に各専門領域の看護学への学習意欲が高められることをねらいとする。</p> <p>具体的には、歴史的に看護が果たして来た役割や機能、看護とは何か、看護の対象の理解、看護職と看護活動の場の理解等、看護学の基本となる共通した考え方、専門職としての役割と責任及び対象の理解と看護活動の概要を学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の目的と対象について説明できる。 2. 看護の機能と看護活動の場について説明できる。 3. 「看護覚え書」をとおして看護について考える。 <p>【実務経験】奈良:看護師として5年以上の実務経験 臨床における看護実践場面を教材として看護の本質を学べるよう教育方法を工夫する</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p> <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 20%;">単 元</th> <th style="width: 55%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>1)自由に看護を考える</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>看護とは</td> <td>1)看護の定義と役割 2)実践科学としての看護 3)看護における倫理の必要性</td> <td>・看護の定義 ・エビデンス ・看護者の倫理綱領</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>看護の変遷</td> <td>1)看護の変遷</td> <td>・近代以前の看護から現代の看護の変</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>2)現代社会における看護のあり方 3)これからの看護の課題と展望</td> <td>・ナイチンゲール ・看護に対する社会の要望</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>看護の対象</td> <td>1)統合体としての人間</td> <td>・人間とは</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>健康と看護</td> <td>2)健康障害をもつ対象の理解</td> <td>・健康障害とその影響</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>1)健康とは 2)フィフサイクルと健康</td> <td>・WHO健康の定義、 ・発達・発達の概念、発達課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>看護における法的側面</td> <td>1)法の概念 2)看護実践の職業的および法的規則 3)医療事故における法的責任</td> <td>・法の概念 ・保健師助産師看護師法 ・法的責任、看護記録の位置づけ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>看護ケアの基本的役割</td> <td>1)コミュニケーターとしての役割</td> <td>・保健医療福祉におけるチーム活動</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>2)教育的役割と傾聴・共感 3)根拠に基づいたケア</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>保健医療福祉システム</td> <td>1)保健・医療・福祉の概念 2)サービス提供の場 3)保健・医療・福祉チーム</td> <td>・医療施設における看護活動他 ・チーム医療、継続看護と看護の役割 ・地域包括ケアシステム</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>「看護覚え書」から</td> <td>演習:「看護覚え書」をとおして看護を考える</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>看護を理解する</td> <td>・看護とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>〃</td> <td>・看護師の役割</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>〃</td> <td>演習成果の発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>上記終了後、期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	イントロダクション	1)自由に看護を考える		2	看護とは	1)看護の定義と役割 2)実践科学としての看護 3)看護における倫理の必要性	・看護の定義 ・エビデンス ・看護者の倫理綱領	3	看護の変遷	1)看護の変遷	・近代以前の看護から現代の看護の変	4	〃	2)現代社会における看護のあり方 3)これからの看護の課題と展望	・ナイチンゲール ・看護に対する社会の要望	5	看護の対象	1)統合体としての人間	・人間とは	6	健康と看護	2)健康障害をもつ対象の理解	・健康障害とその影響	7	〃	1)健康とは 2)フィフサイクルと健康	・WHO健康の定義、 ・発達・発達の概念、発達課題	8	看護における法的側面	1)法の概念 2)看護実践の職業的および法的規則 3)医療事故における法的責任	・法の概念 ・保健師助産師看護師法 ・法的責任、看護記録の位置づけ	9	看護ケアの基本的役割	1)コミュニケーターとしての役割	・保健医療福祉におけるチーム活動	10	〃	2)教育的役割と傾聴・共感 3)根拠に基づいたケア		11	保健医療福祉システム	1)保健・医療・福祉の概念 2)サービス提供の場 3)保健・医療・福祉チーム	・医療施設における看護活動他 ・チーム医療、継続看護と看護の役割 ・地域包括ケアシステム	12	「看護覚え書」から	演習:「看護覚え書」をとおして看護を考える		13	看護を理解する	・看護とは		14	〃	・看護師の役割		15	〃	演習成果の発表			試験	上記終了後、期末試験	
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																																				
1	イントロダクション	1)自由に看護を考える																																																																					
2	看護とは	1)看護の定義と役割 2)実践科学としての看護 3)看護における倫理の必要性	・看護の定義 ・エビデンス ・看護者の倫理綱領																																																																				
3	看護の変遷	1)看護の変遷	・近代以前の看護から現代の看護の変																																																																				
4	〃	2)現代社会における看護のあり方 3)これからの看護の課題と展望	・ナイチンゲール ・看護に対する社会の要望																																																																				
5	看護の対象	1)統合体としての人間	・人間とは																																																																				
6	健康と看護	2)健康障害をもつ対象の理解	・健康障害とその影響																																																																				
7	〃	1)健康とは 2)フィフサイクルと健康	・WHO健康の定義、 ・発達・発達の概念、発達課題																																																																				
8	看護における法的側面	1)法の概念 2)看護実践の職業的および法的規則 3)医療事故における法的責任	・法の概念 ・保健師助産師看護師法 ・法的責任、看護記録の位置づけ																																																																				
9	看護ケアの基本的役割	1)コミュニケーターとしての役割	・保健医療福祉におけるチーム活動																																																																				
10	〃	2)教育的役割と傾聴・共感 3)根拠に基づいたケア																																																																					
11	保健医療福祉システム	1)保健・医療・福祉の概念 2)サービス提供の場 3)保健・医療・福祉チーム	・医療施設における看護活動他 ・チーム医療、継続看護と看護の役割 ・地域包括ケアシステム																																																																				
12	「看護覚え書」から	演習:「看護覚え書」をとおして看護を考える																																																																					
13	看護を理解する	・看護とは																																																																					
14	〃	・看護師の役割																																																																					
15	〃	演習成果の発表																																																																					
	試験	上記終了後、期末試験																																																																					
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																																					
・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論,メディカ出版 ・ナイチンゲール:看護覚え書,現代社		科目終了時の最終試験の評価:100% *主体的に授業・演習に参加し学習する																																																																					

授 業 進 度 計 画

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
基礎看護学概論Ⅱ (倫理と理論)	看護学科 / 1年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	松本 美弥(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

基礎看護学概論Ⅰでの看護の概念の学びをもとに、看護理論・看護倫理・医療安全について理解し、専門職として看護のあり方を学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護実践に役立つ看護理論について学習し、看護とは何かを科学的根拠から学ぶ必要性を説明できる。
2. 医療安全について基礎的知識を習得し、事故防止の必要性と対策について説明できる。
3. 看護倫理に関する基礎知識と倫理的意思決定について理解し、専門職としての態度を表現することができる。

【実務経験】松本美弥:看護師として5年以上の実務経験

臨床における看護実践場面を教材として学べるよう教育方法を工夫する

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト・事前配布のレジメ等による予習を行い授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	医療安全	1) 医療安全と看護理念	・保助看法・名称独占・業務独占 ・法的責任
2	”	2) 事故発生のメカニズム、ヒューマンエラーとは	・ヒューマンエラー・ヒューマンアフター工学
3	”	3) 事故分析 4) 事故対策	・ハインリッヒの法則
4	”	5) 医療安全に関する国の取り組み	・スイスチーズモデル。
5	看護倫理	6) 医療事故の定義と分類 医療事故の初期対応	・医療過誤 医療事故 インシデント
6	”	7) 看護における医療事故と安全対策	・インシデントレポート
7	”	8) KYTの実践 インシデント分析の実際	・看護事故の構造・KYT
8	”	1) 看護倫理とは	・社会規範 ・道徳的規範 ・患者の尊厳・平等
9	看護理論と看護実践	2) 倫理の歴史的経緯と看護倫理 患者の権利とインフォームドコンセント	・倫理綱領 インフォームドコンセント ・ジュネーブ宣言 ・ヘルシンキ宣言
10	”	3) 医療専門職の倫理規定 国際看護師協会の取り組み	・日本看護協会倫理綱領 ・人間の尊厳
11	”	我が国の看護倫理への取り組み	・権利擁護 自己決定権 守秘義務
12	”	4) 看護者の倫理綱領 事例演習	・看護の使命、目的 ・倫理的ジレンマ
13	”	1) 看護理論とは何か	・大看護理論・中範囲理論・小理論
14	”	2) 各理論家について	・ニード論・発達理論 ・メタパラダイム
15	”	3) オレム セルフケア理論について	・治療的セルフケア・デマンド ・セルフケア能力・ ・普遍的、発達のセルフケア要件
16	”	3) オレム セルフケア理論 事例演習①	・マズローによる欲求の階段構造
17	”	3) オレム セルフケア理論 事例演習②	・常在条件・病理的状态
18	”	4) バージニアA.ヘンダーソン 「看護の基礎となるもの」グループワーク	・14の基本的項目
19	”	”	
20	”	発表会	
21	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

- ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学①
看護学概論,メディカ出版
- ・小林美雪 他:ナーシング・グラフィカ
看護の統合と実践② 医療安全
- ・ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価:100%
- ※単位認定試験は再試まで実施することができる。
- ※欠席者は、欠席時の授業のレポートを次回の授業までに提出する事

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
基礎看護技術論 I (共通技術)	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	森崎 志保(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

看護展開の基盤となる看護技術の特徴や基本原則を理解し、個への適応の判断ができる思考の基礎を学ぶ。また対象となる人の健康状態を系統的に情報収集して、査定するための基本となる看護技術「バイタルサイン」「身体計測」「記録」について学ぶ。ここでの学習が全ての看護技術の基盤となり、個への看護実践につながることをねらいとする。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 生命をもつ人を対象に実践される看護技術の特徴について説明できる。
2. 看護技術における安全性・安楽性・自立支援、個への適応について説明できる。
3. バイタルサインの意義と体温・脈拍・呼吸・血圧の意義、メカニズム、影響因子、測定方法について説明できる。
4. 診療情報としての看護記録の意義、留意点について説明できる。

【実務経験】吉田展子:看護師として5年以上の実務経験

臨床での看護実践場面の教材化、正確な技術習得ができるよう工夫し授業を展開する

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	看護技術の構成	1)看護技術とは	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスとアート ・科学的根拠に基づいた看護(EBN) ・看護の3H ・問診・視診・触診・打診・聴診 ・*理解度確認テスト① ・*理解度確認テスト② 4年生との交流学习 4年生との交流演習 ・法的位置づけ ・国家試験問題
2	〃	1)看護技術の特性と基本原則 2)看護ケアの要素	
3	フィジカルアセスメント	1)フィジカルアセスメントとヘルスアセスメント 2)5つの基本技術	
4	バイタルサイン	1)バイタルサインの意義	
5	〃	2)呼吸 メカニズムと影響因子	
6	〃	3)脈拍 メカニズムと影響因子 測定方法	
7	〃	4)体温 メカニズムと影響因子 測定方法	
8	血圧測定の実際	5)血圧 メカニズムと影響因子 測定方法 触診法と聴診法	
9	身体計測	血圧計の構造・名称 1)身体計測の意義 身長、体重、頭囲、腹囲	
10	バイタルサインの実際	★援助計画の作成	
11	バイタルサインの実際	1)バイタルサイン観察の実際	
12	〃	演習:体温、脈拍、呼吸、SPO ₂ 、血圧 全身の動脈の触知、記録	
13	記録と報告	1)看護記録の意義 2)記載時の留意点	
14	技術試験	血圧測定 of 技術試験	
15	まとめ	まとめ	
試験		上記終了後 期末試験	

[使用テキスト]

- ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ.基礎看護学
- ・松尾ミヨ子:ナーシング・グラフィカ.基礎看護学②.
- ・竹尾恵子:看護技術プラクティス.学研

[参考文献]

- ・高橋照子他:看護学原論.南江堂

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:100%
- 単位認定を受けるためには、技術試験に合格することが必要
*授業参加状況・学習態度を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎看護技術論Ⅱ (感染)	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	南原由理子/吉田展子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護は「実践の科学」である。基本的看護技術において「感染防止」は、対象の健康と安全を守る上で重要な技術であり、日常生活の援助、診療の補助業務において技術の基本となるものである。また抵抗力の低下した対象にとって感染は重篤な症状を引き起こす。医療施設等において感染対策は重要な課題であり、組織的に推進している。本科目において感染に対する標準予防策を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解し、感染予防の技術(標準予防策)を実施できることをねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.標準予防策について専門用語を用いて説明できる。 2.感染予防の基本である手洗いと手指消毒を正しく実施できる。 3.無菌操作の基本を理解し、実施できる。 <p>【実務経験】南原・吉田:看護師としてともに5年以上の実務経験 臨床における看護実践場面を教材として学べるよう教育方法を工夫する</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	感染防止対策の基本	1)感染防止の基礎知識	・感染の連鎖
2	感染症予防のプロセス	2)スタンダードプリコーション(標準予防策)	・スタンダードプリコーション
3	”	3)感染経路別予防対策	・接触感染、飛沫感染、空気感染
4	”	4)感染防止対策の組織化	
5	”	5)洗浄・消毒・滅菌	・消毒法、滅菌法、滅菌物の管理
6	”	6)滅菌物の取り扱い	
7	感染防止の技術	演習① 手洗い 手指消毒	・日常的手洗い ・衛生的手洗い ・手指消毒
8	”	演習② 手洗い 手指消毒	
9	”	消毒薬品について 主な消毒薬 ・希釈方法	★理解度確認小テスト
10	”	演習③ 滅菌手袋の着脱	
11	”	演習④ 滅菌手袋の着脱	・無菌操作 ・滅菌包の開き方
12	”	演習⑤ 無菌操作(鑷子の取り扱い)	・鑷子の取り扱い
13	”	演習⑥ 無菌操作(鑷子の取り扱い)	
14	”	演習⑦ ガウンテクニック	・汚染区域と清潔区域
15	”	演習⑧ ガウンテクニック	
	”	技術チェック	
	”	滅菌手袋の着脱	
	”	技術試験 無菌操作(鑷子の取り扱い)	
	”	まとめ・振り返り	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ基礎看護学 ③基礎看護技術 メディカ出版 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス、改訂3版、学研 ・藤本秀司:わかる!身につく!病原体・感染・免疫 改訂2版 南山堂		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)最終試験受験資格:技術試験に合格している者 *授業参加状況・学習態度・提出物の提出状況も考慮する	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎看護方法論Ⅰ (環境・活動)	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30時間)	必須	南原由理子/徳竹律子 吉田展子(実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

看護展開の基礎となる技術の原理・原則を理解し、対象に必要な日常生活援助の「環境」「活動と休息」を提供するための知識、及び、基本的技術を臨床で活用できるレベルとして学ぶ。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護の対象となる人の生活環境を整えるための基本的技術の原理・原則を説明できる。
2. 看護の対象となる人と看護の実践者双方の安全、安楽、かつ効率的な姿勢や動作(ボディメカニクス)について基本的考え方を説明できる。
3. 人間の自然な動きを理解し、日常生活に障害のある対象への自立を支援する基本技術を習得する。
4. 日常生活における活動と休息のニーズを充足するための基本技術を習得する。

【実務経験】南原・徳竹・吉田:看護師として5年以上の実務経験

臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

[授業の内容]			学習のポイント
回	単 元	内 容	
1	環境を整える援助	1)環境の意義と環境整備	・環境・人間・健康との関連
2	"	2)室温と湿度、プライバシー保護	・病床環境のアセスメント
3	活動・運動の援助	3)騒音 採光と照明	・実習室の構造、使用方法の理解
4	"	4)病室の環境調整 演習:実習室の環境測定	★理解度確認テスト①
5	環境を整える援助	1)人間における活動とは	・病床環境の整備
6	"	2)活動とは	
7	"	3)運動とは 4)活動制限が人間に及ぼす影響とは	
8	活動・運動の援助	1)病床とベッド 2)ベッドメイキング ★援助計画の作成	
9	"	3)ベッドメイキングの実際	人間の自然な動き (寝返る・起きる・座る・立つ・歩く) ★理解度確認テスト②
10	"	3)移動・移乗の実際 車椅子、輸送車、歩行援助 演習:車椅子移乗と移送	・ボディメカニクスの原則に基づいた技術
11	環境を整える援助	1)クローズドベッドの作成	・ボディメカニクスの原則に基づいた技術
12	"	"	・技術試験(クローズドベッドの作成)
13	睡眠・休息の援助	1)休息の意義 2)睡眠とその援助 3)休息への援助	・サーカディアンリズム
14	臥床患者のシーツ交換	1)臥床患者のシーツ交換	
15	"	演習:臥床患者のシーツ交換★援助計画の作成	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

- ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術
メディカ出版
- ・F.ナインゲール,薄井坦子他訳:看護覚え書き、現代社
- ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 改訂3版、学研

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:100%
- 2)最終試験受験資格:技術試験に合格している者
*授業参加状況・学習態度を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																																																																				
基礎看護方法論Ⅱ (清潔)	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習																																																																				
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須・選 択	授 業 担 当 者																																																																				
15回	1単位 (30 時間)	必 須	桑原 真弓(実務経験有)																																																																				
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護展開の基本となる清潔援助技術の根拠を人体の構造と機能から理解する。そして対象の個別性をふまえた清潔援助を実施するための基本的技術・観察力・判断力を演習を通して学ぶ。</p> <p>看護は清潔援助をはじめ看護技術を通して、対象の自然治癒力を高めるように働きかける。看護の機能を十全に遂行するために、本科目において対象に必要な看護技術の基本を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解し、実施できることをねらいとする。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康障害時の衣生活について、専門用語を用いて説明できる。 健康障害時の清潔援助について皮膚の構造と機能を理解し、専門用語を用いて援助方法を説明できる。 清潔援助のアセスメントを行い、根拠に基づいた基本的な看護技術を実施できる。 <p>【実務経験】桑原真弓:看護師として5年以上の実務経験 臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト・事前配布のレジメ等による予習を行い授業に臨む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 25%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>清潔援助の基礎知識</td> <td>1)清潔の意義 2)清潔援助の基礎知識</td> <td>清潔の生理的意義・心理的社会的意義 衣生活の生理的意義・心理的社会的意義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>衣生活の援助</td> <td>1)衣生活援助の基礎知識 2)日常生活と衣生活行動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>3)健康障害時の衣生活のアセスメントと援助方法 4)病衣の選び方、寝衣交換</td> <td>・病衣の条件 ・寝衣交換</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>衣生活の援助の実際</td> <td>1)寝衣交換の実際 寝衣交換援助計画の作成</td> <td>・個別性を考えた援助とは ・安全、安楽、自立を踏まえた援助計画</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>演習1) 臥床患者の寝衣交換</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>健康障害時の清潔援助</td> <td>1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 ①入浴・シャワー浴・洗髪</td> <td>・清潔行動とは ・入浴・シャワー浴・洗髪・温浴効果</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>②清拭・部分浴(手・足浴・陰部洗浄)</td> <td>・温浴作用 ・援助の目的</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 ③口腔・鼻・耳の清潔・整容</td> <td>・援助の目的・整容・口腔ケア ・入浴・シャワー浴・洗髪・温浴効果</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>演習</td> <td>演習2) 口腔ケア</td> <td>・温浴作用 ・援助の目的 ・援助の目的・整容・口腔ケア</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>演習</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>・口腔内の清潔を保つ援助の方法 ・義歯の取り扱い方について</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>演習</td> <td>演習3) お湯をつくってみよう それぞれの援助の適温を作ってみよう</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>演習</td> <td>演習4) 全身清拭 デモストレーション 援助計画作成GW</td> <td>・湯温、関節の把持の仕方、清拭の仕方 ・プライバシーの保持</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>演習</td> <td>演習5) 全身清拭(陰部清拭を含む)</td> <td>・安全、安楽、自立を踏まえた援助</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>技術試験</td> <td>技術試験 全身清拭</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>演習終了後 期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	清潔援助の基礎知識	1)清潔の意義 2)清潔援助の基礎知識	清潔の生理的意義・心理的社会的意義 衣生活の生理的意義・心理的社会的意義	2	衣生活の援助	1)衣生活援助の基礎知識 2)日常生活と衣生活行動		3	"	3)健康障害時の衣生活のアセスメントと援助方法 4)病衣の選び方、寝衣交換	・病衣の条件 ・寝衣交換	4	衣生活の援助の実際	1)寝衣交換の実際 寝衣交換援助計画の作成	・個別性を考えた援助とは ・安全、安楽、自立を踏まえた援助計画	5	"	演習1) 臥床患者の寝衣交換		6	"	"		7	健康障害時の清潔援助	1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 ①入浴・シャワー浴・洗髪	・清潔行動とは ・入浴・シャワー浴・洗髪・温浴効果	8	"	②清拭・部分浴(手・足浴・陰部洗浄)	・温浴作用 ・援助の目的	9	"	1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 ③口腔・鼻・耳の清潔・整容	・援助の目的・整容・口腔ケア ・入浴・シャワー浴・洗髪・温浴効果	10	演習	演習2) 口腔ケア	・温浴作用 ・援助の目的 ・援助の目的・整容・口腔ケア	11	演習	"	・口腔内の清潔を保つ援助の方法 ・義歯の取り扱い方について	12	演習	演習3) お湯をつくってみよう それぞれの援助の適温を作ってみよう		13	演習	演習4) 全身清拭 デモストレーション 援助計画作成GW	・湯温、関節の把持の仕方、清拭の仕方 ・プライバシーの保持	14	演習	演習5) 全身清拭(陰部清拭を含む)	・安全、安楽、自立を踏まえた援助	15	技術試験	技術試験 全身清拭			試験	演習終了後 期末試験	
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																																																																				
1	清潔援助の基礎知識	1)清潔の意義 2)清潔援助の基礎知識	清潔の生理的意義・心理的社会的意義 衣生活の生理的意義・心理的社会的意義																																																																				
2	衣生活の援助	1)衣生活援助の基礎知識 2)日常生活と衣生活行動																																																																					
3	"	3)健康障害時の衣生活のアセスメントと援助方法 4)病衣の選び方、寝衣交換	・病衣の条件 ・寝衣交換																																																																				
4	衣生活の援助の実際	1)寝衣交換の実際 寝衣交換援助計画の作成	・個別性を考えた援助とは ・安全、安楽、自立を踏まえた援助計画																																																																				
5	"	演習1) 臥床患者の寝衣交換																																																																					
6	"	"																																																																					
7	健康障害時の清潔援助	1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 ①入浴・シャワー浴・洗髪	・清潔行動とは ・入浴・シャワー浴・洗髪・温浴効果																																																																				
8	"	②清拭・部分浴(手・足浴・陰部洗浄)	・温浴作用 ・援助の目的																																																																				
9	"	1)健康障害時の清潔援助のアセスメントと援助 ③口腔・鼻・耳の清潔・整容	・援助の目的・整容・口腔ケア ・入浴・シャワー浴・洗髪・温浴効果																																																																				
10	演習	演習2) 口腔ケア	・温浴作用 ・援助の目的 ・援助の目的・整容・口腔ケア																																																																				
11	演習	"	・口腔内の清潔を保つ援助の方法 ・義歯の取り扱い方について																																																																				
12	演習	演習3) お湯をつくってみよう それぞれの援助の適温を作ってみよう																																																																					
13	演習	演習4) 全身清拭 デモストレーション 援助計画作成GW	・湯温、関節の把持の仕方、清拭の仕方 ・プライバシーの保持																																																																				
14	演習	演習5) 全身清拭(陰部清拭を含む)	・安全、安楽、自立を踏まえた援助																																																																				
15	技術試験	技術試験 全身清拭																																																																					
	試験	演習終了後 期末試験																																																																					
<p>[使用テキスト]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 MCメディカ出版 ・F.ナイチンゲール、薄井坦子他訳:看護覚え書き、現代社 ・プラクティス 学研 		<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)</p> <p>科目終了時最終試験評価: 100%</p> <p>※単位認定試験は再試まで実施することができる。</p> <p>最終単位認定: 単位認定試験と技術試験にともに合格している者</p> <p>※技術試験: 5回以上全身清拭の練習を実施した者は、受験することができる</p>																																																																					

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
基礎看護方法論Ⅲ (食事・排泄)	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	吉田 展子(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

看護展開の基礎となる技術の原理・原則を理解し、対象に必要な日常生活援助の「食事」「排泄」を提供するために必要な知識と技術を習得し、習得した看護技術を科学的に説明し、実施できるよう本科目において「食事」「排泄」に対する観察力、判断力を臨床で活用できるレベルにまで系統立てて理解することをねらいとする。

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 食事に対する基本的欲求を理解し、対象に応じた食事援助の必要性・方法を原理・原則に基づいて説明できる。
2. 排泄に対する基本的欲求を理解し、対象に応じた排泄援助の必要性・方法を原理・原則に基づいて説明できる。
3. 基本的な食事援助・排泄援助を実施できる。

【実務経験】吉田展子:看護師として5年以上の実務経験

臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	食事と栄養	1)食の意義	・食べることの意義
2	食事・栄養に関する基礎知識	1)栄養状態のアセスメントの視点 2)食事を阻害する因子 3)栄養と食事に対する看護師の役割	・消化・吸収 ・栄養状態のアセスメント ・治療食・栄養に関するチーム医療
3	食事援助の実際	1)食事のプロセスとアセスメント 2)食事介助における看護師の役割	・食事のプロセス ・食事の援助
4	摂食嚥下のメカニズム	1)摂食嚥下のメカニズム 2)嚥下障害の基本的援助	・嚥下障害のメカニズム ・嚥下訓練
5	食事援助の実際	演習1) 食事介助と口腔ケア 食後の観察	・食事介助 ・口腔ケア
6			
7	非経口的栄養援助	1)食事の基本的援助の振り返り 2)非経口的栄養援助の目的と方法	・安全な経口摂取の援助 ・経鼻経管栄養法、中心静脈栄養法
8	排泄の意義	1)排泄の意義 2)排尿機関の機能と排尿のメカニズム 3)排尿のアセスメントと排尿の異常	・排泄の意義 ・排尿のメカニズム ・排尿を促す基礎知識
9	排便援助の実際	1)排便機関の機能と排便のアセスメント 2)排便のアセスメントと排便の異常 3)自然排泄の援助	・排便のアセスメント ・排便を促す基礎知識
10	排泄ケアの必要性	1)排泄ケアの必要性 2)排泄ケアの種類 3)排泄援助のポイント	・排泄援助を受ける患者の気持ち ・安楽で排泄しやすい体位 ・尿器・便器の種類と挿入の仕方
11	排尿・排便困難時の援助方法	1)自然排泄の困難な場合の援助 2)必要な情報とアセスメント	・排尿障害・排便障害 ・1次的導尿・持続導尿・グリセリン浣腸・摘便
12	床上排泄の援助方法の実際	演習2) 便器・尿器の当て方 環境調整・プライバシーの配慮	・安全・安楽な排泄の体位 ・羞恥心への配慮
13			
14	演習の振り返り	1)排泄の意義についての再確認	
15	まとめ	2)ストーマ造設患者への看護 上記学習の確認	
	試験	上記終了後期末試験	

[使用テキスト]

・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ基礎看護学
③基礎看護技術、MCメデイカ出版
・竹尾恵子:看護技術プラクティス、学研

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

科目終了時の最終試験の評価: 100 %
出席状況(遅刻・早退を含む),学習態度を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床援助技術論 I (与薬)	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	山下美紀 / 高橋加代 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

既習の知識を活用し、薬物療法を受ける対象のニーズを理解し、安全で効果的な与薬を行うために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 正確・安全な与薬法を行うための基礎知識が説明できる。
2. 薬物療法における看護の役割が説明できる。
3. 正確な知識にもとづいた、安全かつ苦痛の少ない与薬の基本技術が習得できる。

【実務経験】山下美紀:看護師・助産師としてともに5年以上の実務経験

臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識・技術の習得ができるよう授業を行う

【準備学習】

授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	与薬の基礎知識	1)与薬とは 2)与薬における法的根拠 薬物表示 薬剤の体内動態	・体内動態と吸収時間 ・保助看法 医療法 ・看護師の役割
2	各種与薬の援助方法	1)看護師の役割 2)正しい与薬 薬の管理 3)経口与薬 4)直腸内与薬 点眼 吸入 経皮的与薬	・6R 3回の確認 ・特徴の理解
3	〃		
4	注射による与薬法	1)注射法の基礎知識 注射方法と種類 2)薬液の準備(アンプル バイアル) 3)筋肉内注射	★理解度確認テスト①
5	〃		・注射部位選定のアセスメント
6	〃	4)皮下注射	
7	〃	5)薬液準備の実際 演習:薬液の準備 アンプルからの吸い上げ	・無菌操作
8	〃	6)筋肉内注射の実際 演習:筋肉内注射	
9	〃	★援助計画の作成	
10	〃	7)皮内注射	
11	静脈内注射 技術試験	1)静脈内注射の基礎知識 1)薬剤の準備	★理解度確認テスト②
12	点滴静脈内注射	1)点滴静脈内注射の基礎知識	
13	〃	2)点滴中の看護 ★援助計画の作成	
14	与薬における安全	1)注射業務と事故防止 針刺し防止策について	
15	〃	まとめ	★理解度確認小テスト③
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

- ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ基礎看護学③
基礎看護技術.メディカ
- ・竹尾恵子:看護技術プラクティス.学研
- ・古川裕之:ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ち②
臨床薬理学.メディカ

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:100%
- 単位認定を受けるためには、技術試験に合格することが必要
*授業参加状況・学習態度を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態																																																							
臨床援助技術論Ⅲ (経過別・症状別)	看護学科/1年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習																																																							
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者																																																							
15 回	1単位(30 時間)	必須	鎌田 寿子/中西 文香(実務経験有) 高橋加代(実務経験有)																																																							
<p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>健康障害を持つ対象を理解し、対象の状態に応じた看護の考え方や看護援助を理解することを目的とする。看護の対象を健康上のニーズを持つ生活者という視点から捉え、対象の成長・発達段階における特徴および各段階における健康課題・問題と主要症状や疾病の経過に応じた看護の基本を学ぶことをねらいとする。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1.疾患の経過に基づく対象のニーズを理解し、援助方法を説明できる。 2.各症状の根拠を病態生理から説明できる。 3.疾病の症状に基づいて対象のニーズを理解し、援助方法を説明できる。</p> <p>【実務経験】鎌田・中西・高橋:看護師としてともに5年以上の実務経験 臨床での看護実践場面を教材とし、主体的に基本的な知識の習得ができるよう授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 50%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>対象の理解</td> <td>1) 発達段階と健康上のニーズ</td> <td rowspan="5">・常に生活者の視点を考えて対象理解ができる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>経過別看護</td> <td>1) 急性期にある対象のニーズと看護</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>2) 慢性期にある対象のニーズと看護</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>3) リハビリテーション期の対象のニーズと看護</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>〃</td> <td>4) 終末期にある対象のニーズと看護</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>症状別看護</td> <td>1) 発熱のある患者への看護</td> <td rowspan="10">・各症状を根拠に基づいて理解できる ・症状に応じた対象への適用方法を理解できる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>2) 痛みのある患者への看護</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>3) 呼吸困難のある患者への看護</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>〃</td> <td>4) 浮腫のある患者への看護</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>5) 悪心・嘔吐のある患者への看護</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>〃</td> <td>6) 便秘のある患者への看護</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>〃</td> <td>7) 嚥下障害のある患者への看護</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>〃</td> <td>8) 意識障害のある患者への看護</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>〃</td> <td>9) 片麻痺のある患者への看護</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>〃</td> <td>10) まとめ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>上記授業終了後、期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	1	対象の理解	1) 発達段階と健康上のニーズ	・常に生活者の視点を考えて対象理解ができる	2	経過別看護	1) 急性期にある対象のニーズと看護	3	〃	2) 慢性期にある対象のニーズと看護	4	〃	3) リハビリテーション期の対象のニーズと看護	5	〃	4) 終末期にある対象のニーズと看護	6	症状別看護	1) 発熱のある患者への看護	・各症状を根拠に基づいて理解できる ・症状に応じた対象への適用方法を理解できる	7	〃	2) 痛みのある患者への看護	8	〃	3) 呼吸困難のある患者への看護	9	〃	4) 浮腫のある患者への看護	10	〃	5) 悪心・嘔吐のある患者への看護	11	〃	6) 便秘のある患者への看護	12	〃	7) 嚥下障害のある患者への看護	13	〃	8) 意識障害のある患者への看護	14	〃	9) 片麻痺のある患者への看護	15	〃	10) まとめ		試験	上記授業終了後、期末試験	
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト																																																							
1	対象の理解	1) 発達段階と健康上のニーズ	・常に生活者の視点を考えて対象理解ができる																																																							
2	経過別看護	1) 急性期にある対象のニーズと看護																																																								
3	〃	2) 慢性期にある対象のニーズと看護																																																								
4	〃	3) リハビリテーション期の対象のニーズと看護																																																								
5	〃	4) 終末期にある対象のニーズと看護																																																								
6	症状別看護	1) 発熱のある患者への看護	・各症状を根拠に基づいて理解できる ・症状に応じた対象への適用方法を理解できる																																																							
7	〃	2) 痛みのある患者への看護																																																								
8	〃	3) 呼吸困難のある患者への看護																																																								
9	〃	4) 浮腫のある患者への看護																																																								
10	〃	5) 悪心・嘔吐のある患者への看護																																																								
11	〃	6) 便秘のある患者への看護																																																								
12	〃	7) 嚥下障害のある患者への看護																																																								
13	〃	8) 意識障害のある患者への看護																																																								
14	〃	9) 片麻痺のある患者への看護																																																								
15	〃	10) まとめ																																																								
	試験	上記授業終了後、期末試験																																																								
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																								
<ul style="list-style-type: none"> ・岩井郁子:系統看護学講座, 別巻17, 臨床看護総論, 医学書院. ・任和子:ナーシンググラフィカ 基礎看護学⑤ 臨床看護総論, メディカ出版. ・林正健二:ナーシンググラフィカ人体の構造と機能 解剖生理学, メディカ出版. 		1)科目終了時の最終試験の評価:100%																																																								

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
成人看護学概論	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	高橋 加代(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 本科目は、ライフサイクルにおける成人に焦点を当てた、看護実践の基本的な考え方について学ぶ。成人期は生活習慣や加齢に伴って健康問題をきたしやすく、いったん健康が障害されると周辺の人々にも影響が及ぶ。一方、成人期は生産性に優れているが、健康上の問題に対する取り組み方は個々の価値観や考え方による。このような成人期の特徴を踏まえ、成人をとりまく社会環境や生活環境、保健医療システム、家族形態や機能などから、さらに発達課題の視点から、成人期にある人とその家族について看護の基本的な方法を学ぶ。また、成人看護でよく用いられる基本となる諸理論について学び、総合的・全人的にとらえる方法を学ぶ。それにより、後続する2年次の成人看護方法論Ⅰ～Ⅳ、そして成人看護学実習の基盤となる考え方を学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1. ライフサイクルにおける成人各期の身体的・精神的・社会的側面が説明できる。 2. 成人期の健康問題がライフサイクルに及ぼす影響を説明できる。 3. 成人期の健康問題を明らかにし、疾病予防のための援助方法を説明できる。 4. 成人期にある人の特徴を理解した看護援助が展開できる。</p> <p>【実務経験】高橋加代: 看護師として5年以上の実務経験 臨床での看護実践場面等を教材とし、成人期の対象理解、看護のあり方を学べるよう教育方法を工夫する</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	成人と生活 ①	1) 成人の定義 ・大人であること	・生涯発達の特徴
2	成人と生活 ②	2) 成人各期の発達段階と特徴 ・身体的・精神的・社会的特徴	・生理的年齢に基づく区分 ・家族の形態
3	成人の生活と健康	3) 成人の生活 ・生活を営むということ ・働くということ ・人生の意味	・働いて生活を営むこと
4	成人への看護アプローチの基本	1) 成人の生活から捉える健康 2) 生活と健康をはぐくむシステム	・生活習慣と生活課題 ・成人の保健問題 ・生活と健康を支援するシステム
5	〃	1) 健康行動を生み、育む援助 2) 健康問題を持つ成人と看護師の人間関係 3) 看護実践における倫理的判断 4) チームアプローチ 5) 意思決定支援	・アンドラゴジー、ペタゴジー
6	成人の健康レベルに対応した看護	1) 健康生活を育む看護 2) 生活ストレスと看護 3) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	・経過別看護
7	〃	4) 健康生活の慢性的な揺らぎからの再調整 5) 障害を持ちながらの生活とリハビリテーション 6) 人生最期のときを支える看護	・危機状況への対処を促す看護 ・生命の危機状態
8	成人看護で主に活用する理論	1) 看護理論とは 2) 主な理論について ・危機理論 ・ストレスコーピング理論 ・エンパワメントアプローチ他	・病みの軌跡 ・セルフケア
10	成人の健康生活を促す看護技術	1) 慢性病患者への看護技術 2) 侵襲的治療を受ける患者の看護	・日常生活動作
12	〃	3) 緩和ケアにおける看護技術	・終末期医療 ・緩和ケア
13	変化する医療・生活環境に対応した看護	1) 新たな治療法、先端医療と看護 2) 退院支援の技術 3) がんと共生を促す看護	・QOL(quality of life, 生活の質) ・保健医療福祉の連携
15	試験	以上終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
青木 きよ子 他: ナーシンググラフィカ 成人看護学 ①③④ 成人看護概論 健康危機状況 セルフマネジメント, メディカ出版		1) 科目終了時の最終試験の評価(記述試験): 100% 2) 学習態度の評価・授業参加状況(遅刻・早退を考慮する)	
[参考図書] ・授業毎に提示する			

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
老年看護学概論	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	桑原 真弓(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本科目は老年看護学のイントロダクションにあたり 1、高齢者をその家族と共に一人の生活者としてとらえることができる 2、生理的老化が個人にもたらす影響を理解することができる 3、高齢化社会の保健医療福祉の変遷と今後の課題を理解することができる などを授業の目的としており、これらより看護者の役割を考える。授業方法としては座学だけでなく、グループ学習により、主体的に学ぶ。常日頃より高齢者に関する社会問題、介護問題に関心をもち、新聞や雑誌などで正確に理解しておくなど、学生自ら課題を見つけ、学び、考える姿勢を身につける。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.高齢者の個別性を理解し、生活の視点からとらえて説明できる。 2.高齢者を身体的、精神的、社会的に広く多面的に理解し、説明できる。 3.高齢者の倫理的問題を理解でき、ケアを支える制度及び自立を支援する制度の活用方法を説明できる。</p> <p>【実務経験】桑原真弓:看護師として5年以上の実務経験 臨床での看護実践場面等を教材とし、老年期の対象理解、看護のあり方を学べるよう教育方法を工夫す</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	老年期の理解	1)加齢と老化	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学の概念と自己のもつ老年に対するイメージを照らし合わせる ・多種多様な個人とその家族を全人的にとらえる ・発達課題(ハヴィガースト、エリクソン) ・生活史を通じて高齢者理解を深める
2	〃	2)ライフサイクルと老年期 3)高齢者の多様性	
3	高齢者の健康に関する指標	1)高齢者人口の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関する統計的特徴
4	〃	2)我が国の人口高齢化の特徴とその影響 3)高齢者生活の現状	
5	加齢に伴う変化	1)身体機能の生理的变化	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による機能の変化 ・高齢者と家族の機能 ・高齢者体験を通して加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について考察する
6	〃	2)心理・精神機能の変化	
7	〃	3)社会的機能の変化	
8	〃	4)高齢者体験 ※用具を装着し高齢者を体験する	
9	老年看護の概念	1)老年看護の基本的姿勢 2)老年看護実践の視点 3)老年看護に期待される役割	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のための国連原則 ・高齢者の健康の保持増進 ・関連職種とのチームアプローチ
10	老年看護の倫理	1)高齢者の権利保障	<ul style="list-style-type: none"> ・事前指示 など ・高齢者虐待における我が国の特徴
11	〃	2)インフォームドコンセントと自己決定の支援 3)高齢者の身体拘束 4)高齢者虐待	
12	高齢者の保健・医療・福祉制度の動向	1)高齢者を支える制度 2)高齢者を支える社会資源	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度 など ・施設サービス・在宅サービスにおける看護
13	〃	3)地域包括ケア	
14	高齢者の生活を支える看護	1)高齢者の生活アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活アセスメント(CGA等) ・コミュニケーション、歩行・移動等
15	〃	2)加齢による変化の特徴を踏まえた援助	
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・堀内ふき他:ナーシンググラフィカ 老年看護学① ・高齢者の健康と障害、MCメデिका出版 ・国民衛生の動向、財)厚生統計協会 		1)科目終了時の最終試験の評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児看護学概論	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	塩山 秀子(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 小児の特性を学び、現代社会に生きる子どもやその家族の問題を、医療・福祉・社会環境の視点から理解を深めるとともに、倫理的判断能力を養い、子どもの権利を守るという視点から小児看護の役割と課題について理解することをねらいとする。</p> <p>[科目終了時の達成課題(行動目標)] 1.小児看護の歴史的な変遷を振り返り、小児看護の歩みを理解するとともに、小児の特性、小児看護の概念を記述できる。 2.社会の動向や小児保健医療の動向を理解し、小児看護の役割、他職種との連携の必要性について記述できる。 3.子どもの成長発達的一般原則及び基礎となる理論と成長発達を説明できる。</p> <p>【実務経験】宮武典子:看護師として5年以上の実務経験 臨床での小児看護実践経験、学生の幼少期での体験の想起を促す等教育方法を工夫する</p> <p>【準備学習】 授業の復習ならびにテキスト等による予習を行い授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児看護の概念	1)小児と環境	【レポート】 ・小児看護上で問題となっている現象の背景・要因・具体的アプローチ
2	”	2)小児看護の特徴と役割	
3	”	3)小児看護における倫理	
4	”	4)小児を取り巻く医療の変遷と課題	
5	小児と社会	1)小児保健とネットワーク	・合計特殊出生率 ・死因順位
6	”	2)小児医療・福祉・教育と看護	
7	”	3)母子保健・学校保健の動向	
8	”	4)小児の保健統計・予防接種	
9	小児の成長と発達	1)子どもの成長・発達の原則と影響因子	★理解度確認小テスト エリクソンの自我発達理論 ピアジェの認知発達理論 ボウルビィのアタッチメント理論 ★理解度確認小テスト 形態的成長・機能的発達・精神運動機能
10	”	2)発達理論	
11	”	3)形態的成長と機能的発達	
12	”	4)精神運動機能の発達	
13	”	5)心理・社会的発達	
14	”	6)発達評価と環境アセスメント	
15	”	7)発達評価の演習	
	試験	上記終了後、期末試験	【発達検査法グループ学習】 ・乳幼児発育パーセントイル法 ・遠城寺式乳幼児発達検査表 ・カウプ指数、ローレル指数の計算 【レポート】 ・「幼児の発達表」2枚発表後に提出
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・中野綾美他:ナーシング・グラフィカ 小児看護学 ①小児の発達と看護、メディカ出版 ・厚生統計協会編 国民衛生の動向(最新版)		1)科目終了時の最終試験の評価:90% 2)レポート課題:10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
看護技術演習 I	看護学科/1年次	令和3年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	南原由理子(実務経験有) 吉田 展子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 1年次に学習してきた「知識」・「技術」を統合し看護を实践する科目である。看護実践には対象者がどのような看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここではその基盤となる観察技術や情報収集から必要な日常生活援助を見出し、実施評価できることをねらいとする。また初めての臨床実習である「基礎看護学実習 I」において効果的に看護を展開できる内容とする。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1. バイタルサインの観察結果から事例をアセスメントし、日常生活援助計画の立案ができる 2. 援助計画に基づいて援助を実施し、安全・安楽の視点から目的達成状況を評価できる 3. 自己の基本技術習得レベルを知り、自己の課題を明確にすることができる。 4. 技術試験の合格を通して、前向きに基礎看護学 I 実習に臨むことができる。</p> <p>【実務経験】吉田・南原:看護師としてともに5年以上の実務経験 これまでの学修の学びを統合し、基本的援助技術を習得し基礎看護学 I 実習に臨めるよう授業展開する</p> <p>【準備学習】 既習学習の復習ならびに予習(課題)を行い授業(講義・演習)に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	オリエンテーション	1) 科目のねらい、学習方法の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬患者の想いを考えニーズをグループ内でディスカッションする 基礎看護学 I 実習手引きについて ・ニーズを満たすために援助方法の工夫をグループ内でディスカッションし、よりよい技術を追求する ・援助技術は学生間でお互いにチェックする ・iPadで撮影
2	〃	2) 実習オリエンテーション 事例・課題の提示	
3	事例演習	3) 援助計画の立案	
4	〃	目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点の明確化	
5	〃	4) 計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画の追加と修正	
6	〃	5) 対象事例に適した援助が実施できる	
7	〃	同上	
8	〃	同上	
9	〃	同上	
10	〃	同上	
11	単位認定技術試験	1) 技術試験 (1)バイタルサインの観察と解釈・判断	
12	リフレクション	基礎看護学 I 実習の振り返り	
13	リフレクション	同上	
13	基礎看護学 I 実習 発表会	基礎看護学 I 実習 発表会	
14	まとめ	6) 演習の振り返り	各グループが撮影した援助を発表報告科学的根拠を深める
15	〃	iPadによる上映会 演習発表会 同上	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
基礎看護学概論、方法論、臨床援助技術論で 使用したテキスト及び配付した資料など ・プラクティス 学研		1) 最終技術試験の評価 60% 授業出席参加度40% *ただし技術試験は60点以上を合格とする *技術試験の合格を「基礎看護学 I 実習」履修の条件とする	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授 業 形 態
基礎看護学実習 I	看護学科/1年次	令和3年度	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
	1単位(45時間)	必須	南原由理子/吉田 展子 他 (実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

健康障害を持つ対象を理解し、看護実践に必要な基礎的な知識・技術・態度を習得する。

[実 習 目 標]

1. 対象の生活の場が理解できる。
2. 看護師の役割が理解できる。
3. 対象者の施設での生活や生活の場が説明できる。
4. 発達段階や生活背景の異なる対象とのコミュニケーションを通してニーズに気付くことができる。
5. 基本的看護技術が正確に実施できる。
6. 原理・原則に基づいた日常生活援助が指導のもと実施できる。
7. 看護学生として基本的態度がとれる。

【実務経験】南原・吉田他:看護師として5年以上の実務経験

これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する

【準備学習】□

実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読するとともに事前学習に取り組む

[授 業 の 内 容]

＜実習展開＞

※詳細は、「実習の手引き」を参照

1. 施設見学実習を行う。
2. 看護管理者よりオリエンテーションを受け、施設を見学する。
3. 施設、フロアの構造を理解し、環境測定を行う。
4. 看護師と行動を共にし、臨床看護の実際を見学実習する。
5. 実習終了時に実習の学びを共有する。
6. コミュニケーションが可能で、日常生活援助の必要な患者を受け持つ。
7. 患者とのコミュニケーションから情報を得て、必要とする日常生活援助について考える。
8. 日常生活援助は看護師または教員の指導の下に実施する。
9. 実習前に基本技術の演習を行う。
10. 実習終了時にグループ学習を行い、実習の学びを共有する。

[参考資料]

基礎看護学概論、方法論、臨床援助技術論で使用したテキスト及び配付した資料など
 ・プラクティス, 学研.
 ・藤野彰子:看護技術ベーシックス,医学芸術社.

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)実習評価表に示す基準に基づいて評価する
 方法:実習状況、実習記録、レポート、出席状況から行う